

令和7年度5月号 [5月15日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校

川口市東本郷2-20-47番地

TEL 048-281-4065

特別支援学級 285-2423

さわやか相談室 281-4627

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

心豊かな生徒

校長 柳田 勇

新緑が美しく色づく季節となりました。相変わらず寒暖差が大きく、体調不良を起こしやすい気候が続いております。体調管理には、十分お気を付けいただきたいと存じます。

新年度がスタートし、1ヶ月程が経ちました。お子様の様子はいかがでしょう。東中学校は、落ち着いたスタートを迎えられたと感じております。しかし、最近、少しずつ生徒の様子にも変化がみられてきました。良い言い方をすれば「自分らしさ」がでてきた、悪い言い方をすれば「慣れてきた」ということです。この表裏一体の表現ですが、生徒たちの学校生活には、大きく影響すると考えております。

4月の緊張感ある生活は、お互いが気を遣い合っていたように思います。これは、どの社会でもある話です。それが、同じ時間を過ごしていく中で、相手の性格や集団の雰囲気自分なりに感じ、「このくらいいいんじゃないか」と考えるようになるのは、誰もが経験済みのことかと思えます。しかしそれは、あくまでも自分自身が感じていることであり、相手に確かめたりしたものではありません。自分なりに感じた上での言動ということをしてしまうと、トラブルにつながる場合があります。「そんなつもりで言った訳ではありません」と、何かあったときに生徒は言います。しかし、言われた方は違う解釈で受け止める場合もあります。このようなことは、御家庭でもある話ではないでしょうか。何気ない会話が、言い争いなるようなことです。

思春期は成長にともない、自分自身でもわからないけれども、落ち着かなかったり、機嫌が悪かったりすることがあります。また、よく説明もしていないのに、相手も同じ考えだろうと決めつけてしまうこともあります。生徒たちはこのような経験により、成長をしていく訳ですが、成長の仕方も人それぞれです。「そんなつもり～」と思って発言している生徒と、「なんでそんなこと言うの」と捉える生徒と一緒に生活していることを忘れないように、大人も気を配らなければなりません。生徒のよりよい成長には、大人の適切な指導・支援はとても大切なことだからです。

昔から、『親しき中にも礼儀あり』と言われてるように、誰に対しても気遣いをすることは人間関係を円滑にするためには必要なことです。しかし、会話のほかにも、スマートフォンなどによるSNSなど、今の生徒のコミュニケーションツールは様々です。そして、これらのツールは、会話以上に自分の思いと違う捉われ方をされる場合があります。生徒には“相手を思う心”や“想像する力”をしっかりと育てていきたいと考えております。道具はこれからも今以上に進化し、さらに便利になることは間違いありません。しかし、その道具をどのように使うか、また、どのように物事を表現するかは、その人に任されています。心豊かな生徒の育成に、今後とも全力を注いで参ります。保護者・地域の皆様も、生徒のよりよい成長のため、御協力の程よろしくお願いいたします。